

## 43名の新任者の先生方に期待すること

今年度43名（教諭37名、養護教諭3名、栄養教諭1名、事務職員2名）の新任者の先生方が、管内に配属されました。まずは、新任者同士や各学校の先生方との出会いやつながりを大切にもらい「誰一人取り残すことなく」この「玉名」の地で2年目を迎えてもらいたいと思っています。そして、これから5年後、10年後には学校の中核として活躍する姿を期待していますし、初任の地「玉名」でまた頑張りたいと言える、そんな初任3年間を送ってもらえたら嬉しいです。

今後も先生方が夢や希望をもち、教職員の仕事にやりがいを感じながら、子供の瞳を輝かすことのできる、そんな先生方であり続けていただけるよう、共に頑張りましょう。



## 健全な組織風土が機能する組織の第一歩

子供たちにとっての学級は、学校生活を送るうえでの組織です。学校で気持ちよく過ごすためには、いじめ等がなく自己表現しながら仲間と一緒に学ぶことができる組織風土が必要です。一方、教職員にとっての学校も働くうえでの組織です。子供たちと同じように学校で気持ちよく働きがいを持って子供たちに教育を行うためには、教職員全員が心理的安心感をもちながら働く組織風土が必要になります。

そういった健全な組織風土は、あらゆる組織にとって重要な土台です。不健全な圧を取り除き、みんなで小さなことを大事にし積み上げていくことで、健全な組織風土がつくりあげられます。職員一人一人の地道な努力によって、働きやすく働きがいのある職場は生まれると考えられます。

健全な組織風土をつくるにはどうしたらいいのでしょうか。例えば、職員同士がきちんと顔を見てあいさつをする、何かしてもらったら感謝を述べる、頑張っていた人がいたら褒める、困っている人がいたら声をかける、仲間の考えに耳を傾けるなど、言ってみれば当たり前のことばかりです。これらは教職員が教室の子供たちに伝えていることでもあります。健全な組織風土は、誰かが与えてくれるものではなくみんなで作り上げるものであり、機能する組織づくりの第一歩ではないでしょうか。参考資料：教職研修



### ～ 編集つれづれ ～

▼赴任する学校が変わるととても楽しみにしていることがある。それは、通勤路が変わるため、道端に生えている草木が季節ごとに姿を変えることである。桜から薔薇、花木、紫陽花、百日紅、金木犀、紅葉、椿、山茶花、梅…▼また、学校に勤務している間に、敷地内にどんな木があるのかもだいたい覚えてしまう。金木犀の木はよく植えてあり、教室や廊下で香りに癒やされていた。▼香りと言えば、初任地の天草から2時間程かけて車で帰って来ていた3年目のゴールデンウィーク。実家までノンストップで帰り、車のドアを開けた瞬間、入ってきた香りが今でも忘れられない。母校の校歌に、「橘薫る日々の窓」とあったが、こんなに蜜柑の花が香っていたとは。故郷を離れて初めて分かる故郷の良さ。草木と香りを楽しんでいた母もよく言っていた。「その時季だけの天然の芳香剤」▼今もその香りに浸ると、一瞬で当時の思い出が甦る。そんな香りが、学校に通う児童、生徒、先生方にもきっとあるだろう。校庭、教室、登下校の道…。